

徳島大学・明治大学・徳島県連携事業

事業のポイント

- 各機関による教育・研究活動の包括的交流と連携・協力の推進による教育・研究の進展。
- 各機関が持つ教育資源や知的財産等を活用した社会貢献と人材育成。

事業の概要

1. 事業の目的

本事業は、徳島大学、明治大学、徳島県の教育・研究活動の包括的な交流と連携・協力の推進により、わが国の教育・研究の一層の進展に資することを目的とするとともに、各機関がそれぞれ持つ教育資源、知的財産及び人材と歴史、文化、自然を活用した連携事業を通じて、地域社会への貢献と人材育成に寄与することを目的とした事業である。

2. 連携協議会

平成 28 年 5 月 30 日(月)、第 3 回目となる連携協議会が徳島県庁において開催された。協議会は各機関から担当者が出席し、平成 27 年度に各機関が連携して実施した事業について報告を行うとともに、平成 28 年度に実施する連携講座等の事業が提案・審議され、承認された。

なお、この協議会は、各機関持ち回りで開催されることになっており、平成 29 年度は明治大学において開催される予定である。

3. 連携事業

第 4 回目となる連携事業は徳島県が主担当となり、「四国遍路の世界～遍路文化の独自性と伝統～」と題して、オープン講座(公開シンポジウム)とフィールドワークを含んだ特別企画講座が行われた。

この連携事業は、明治大学の公開講座であるリバティアカデミーの一環として行われ、平成 28 年 11 月 3 日(木・祝)に行われたオープン講座(公開シンポジウム)では、約 305 名の受講者を集め、鳴門教育大学の大石 雅章理事・副学長(教育・研究担当)から「四国遍路の原点～四国と弘法大師信仰～」と題して、香川大学経済学部の稲田 道彦教授から「四国遍路の聖地と景観」と題して、本学教養教育院・外国語教育のモートン 常慈准教授から「四国遍路の魅力～外国人の見た遍路～」と題して基調講演が行われた後、鳴門教育大学の大石 雅章理事・副学長(教育・研究担当)をコーディネーターとして、明治大学の林 雅彦名誉教授に稲田教授とモートン准教授の 2 人を加え、『「遍路文化の独自性と伝統」本質的価値に迫る』と題してパネルディスカッションが行われた。

特別企画講座は計 3 回の連続講座と、実際に徳島の札所を巡るフィールドワークが行われ、10 月 8 日(土)には「四国遍路と弘法大師信仰」と題して明治大学の林 雅彦名誉教授から、10 月 15 日(土)には「近世絵図にみる四国遍

事業代表者・連絡先

吉田 和文(地域連携戦略室長、理事(地域・産官学連携担当)、副学長)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9880
e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

路」と題して本学総合科学部の平井 松午学部長から、10 月 22 日(土)には「山岳信仰から四国遍路へ」と題して徳島県立博物館長谷川 賢二人文課長からそれぞれの講義が行われた。また、11 月 17 日(木)

から 19 日(土)の 3 日間は、約 12 名の参加者を集め、明治大学の林 雅彦名誉教授や徳島県教育文化政策課の早瀬 隆人主査、本学教養教育院・外国語教育のモートン 常慈准教授も同行し、四国八十八ヶ所霊場会公認先達の説明を受けながら、第一番札所霊山寺、第十番札所切幡寺、第六十六番札所雲辺寺、別格霊場第十五番札所箸蔵寺、第八番札所熊谷寺、第三番札所金泉寺、第二番札所極楽寺などの霊場を、実際の遍路作法や霊場の歴史、霊場の間にある丁石などの話を聞きながら深秋の霊場を巡った。



オープン講座チラシ

4. 今後の展開

連携事業は本学と徳島県が交互に主担当となって開催しているが、平成 29 年度は本学が主担当となり、シンポジウムの開催を予定している。

また、このような事業のほか、各機関が持つ教育資源を活用した授業の開講、研究や学生の交流等、地域社会への貢献や人材育成への寄与、教育・研究の進展を目的とした様々な事業が実施されている。



モートン常慈准教授「基調講演」



フィールドワーク